



東泉寺薬師堂説明風景



定光寺観音堂説明風景

東泉寺 弓削久司浦988番地
上島町指定有形文化財（建造物）「東泉寺薬師堂」

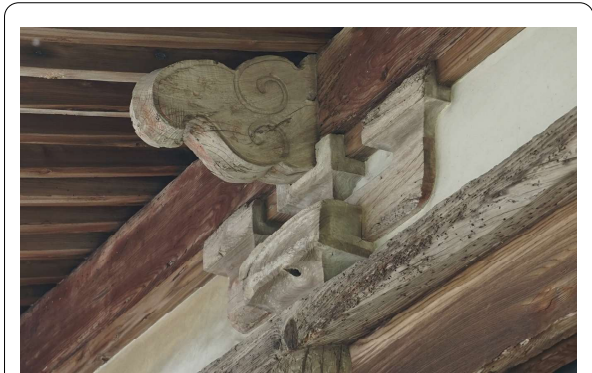


東泉寺薬師堂全景

定光寺 弓削土生241番地
国指定重要文化財（建造物）「定光寺観音堂」



定光寺観音堂全景



拳鼻 (写真上) と平三斗 (写真中央の組物)



渦巻きのある絵様肘木

室町時代中期に創建

第1回 史跡弓削島荘遺跡探訪・散策講座 「弓削島荘遺跡の華やかで個性的な建築文化を 探訪しよう！」

11月13日（日）に、弓削土生地区の定光寺と弓削久司浦地区の東泉寺において、第1回史跡弓削島荘遺跡探訪・散策講座が行われました。本講座は、令和3年10月に国史跡に指定された弓削島荘遺跡について、町民の皆さんとともに学び、その保存活用について考えるきっかけとするために継続的に開催するものです。

第1回の講座では、「弓削島荘遺跡の華やかで個性的な建築文化を探訪しよう！」と題し、史跡指定地である定光寺と東泉寺にて、上島町教育委員会の学芸員が弓削島荘遺跡にある中世建造物の独自性に富む建築様式について解説しました。

定光寺観音堂（国指定重要文化財）と東泉寺薬師堂（町指定有形文化財）は、いずれも室町時代中期に創建された小型仏堂であり、その時代の材や組物などが良好に遺っています。特に、定光寺観音堂の意匠が独創的な絵様肘木（花肘木）や東泉寺薬師堂の極めて大振りな拳鼻などに見られるように、15世紀後半には弓削島荘の地で華やかで個性的な建築文化が花開いたと考えられています。

当日は、時々雨が降る空模様でしたが、多くの地域の方々が足を運ばれ、上島町にある貴重な中世建築文化を身近に感じることができた一日となりました。また、「わかりやすい説明であり、このような講座をたびたび開いてほしい。」という参加者からの感想も聞かれました。次回の探訪・散策講座にもご期待ください。